



長谷寺智の池全景



山梨岡神社石柱建立記念写真



四剣の舞(神楽殿)

笛吹市探訪 シリーズ 第3回

春日居町鎮目地区

今回は春日居町鎮目地区を紹介いたします。鎮目は古代甲斐国の軍団が置かれた場所であり、春日居古墳群や菩提山長谷寺、山梨岡神社等の文化財があります。

春日居古墳群は鎮目地区の山麓を中心に41基の古墳が確認されています。その内、平林2号墳は直径約15mの土盛りの円墳で、6世紀後半に造られました。西関東連絡道路建設工事に伴い発掘調査が行われ、花形鏡板(馬具)、121点の丸玉、金環、直刀、2面の鏡、大甕等が出土しました。それらは山梨県の文化財に指定されています。

発掘調査終了後、石室のみ西関東連絡道路鎮目出口の北側に移築復元しました。

移築復元した石室は全長8・60m、最大幅1・98mあります。平林2号墳は豊富な武器類や装飾品が出土したことから春日居地域の中心的な豪族の墓だと思われています。

平林2号墳石室より農業用道路を徒歩で40分程登ると菩提山長谷寺があります。長谷寺は真義真言宗で本尊は木造十一面観世音菩薩立像です。養老6

年(722)に僧行基により造られたという説もあります。天正10年(1582)武田家滅亡の時に侵入した織田・徳川軍の兵火により伽藍は焼失しました。本堂は江戸時代に再建されました。また本堂の北側には智恵を授かるために僧が修行をした『智の池』があります。

長谷寺の参道を麓まで降り、平等川沿いに15分程歩くと山梨岡神社があります。この神社は古代に創建され、武田家や徳川家から信仰されました。文化財として国指定文化財の本殿(室町時代末期に建築)、県指定文化財の太々神楽(別名武田信玄公出陣の神楽)、市指定文化財のフジや「キの神像」(雷除けの神像)があります。また境内の『郡石』は古代山梨郡の中心に置かれた石です。

今回紹介した鎮目地区と徳条・国府地区(春日居町)、松本・山崎地区(石和町)は昭和31年(1956)まで岡部村と呼ばれていました。村名は山梨岡神社の『岡』と松本地区にある物部神社の『部』に由来したと言われています。

次回は石和地区を紹介いたします。

笛吹市教育委員会 社会教育課